

昭和11年度第1回談話會 (2月13日)

從來も談話會の名の下に臺員相互の研鑽を行つて來たが、多忙のため一時中止されて來た。今後は臺員の散在する傾向あるに鑑み、又將來も研究を中心として會合の機を得る目的で、毎月10日前後、各自の研究、雜誌論文の紹介、又は天文器械、觀測一般に就て意見の交換を行ふ事にした。研究發表は自由で、一般からの参加も申し受ける。又傍聽者も出來得る限り許可する方針であるが、此の際は前以て一應其の手續を取られ度い。

今後此の談話會の模様の大略を誌上で紹介する事にした。先づ本年第1回の談話會は2月13日に花山天文臺圖書室で開かれ、次の如き次第であつた。

出席者 山本、稻葉、柴田、公文、荒木(九)、荒木(健)、堀井、高倉、小山、中村、高城。

1. 小山秋雄氏 變光星の寫眞觀測(使用器 Cooke 附屬 11cm Triplet)

1934年1月から5月迄、比較的 unknown な變光星の多い 19 Mon. 附近の寫眞30枚を得た。13.5等迄調べた結果は總數44個、其の中長週期 Mira Type 11個、食(β Lgr. アルゴル)變光星7個、 δ Cep. 型5個、unknown 21個を得た。

この中 Mira 型6個は新しく決定したもので比較的樂に決つた。未知變光星の中2個は判明したが、其の他は plate の數が少ない爲めに、此後の觀測に待たねばならぬ。19 Lyr. の field は1934年12月から1935年2月迄28枚を得たが、目下整理中である。 ϵ に使用した plate は Eastman 40, 50 富士 portrait 等でキヤビネ板殆んど全面に互つて整理した。觀測は今後續行する豫定である。(文責在月斗生)

2. 柴田淑次氏 Absorption Lines due to Expanding Star. C. Wilson. Ap. J. 82卷)

從來 Shapley, Nicholson, Carroll 等の研究を更に理論的に究明したもので、内容は天界3月號、新知識 532 に“膨脹する星の吸収スペクトル線”として簡単に紹介された。

3. 稻葉通義氏 二重星の統計

M. N. 92 に載せられた Aitken 氏の What we know about double stars 中の種々の表や、其他の材料に就き二重星の一般的概況を述べた。